

第110回 定時株主総会

平成26年9月26日

株式会社 アルバック

経済の状況

▶ 日本

- ◆ 各種財政・金融政策の効果や円高の是正などを背景に企業収益や雇用情勢が改善するなど緩やかな回復を続けてまいりました。

▶ 米国

- ◆ 個人消費が堅調に推移するとともに設備投資や住宅着工にも持ち直しの動きが見られるなど民間需要を中心に緩やかな景気回復の動きが確かなものとなってまいりました。

経済の状況

▶ 欧州

- ◆失業率が依然として高水準にあるものの、低下の動きが見られるなど景気は持ち直しの動きが続きました。

▶ 中国

- ◆個人消費が堅調に増加するなど景気は安定した成長が続いているもののその拡大のテンポは緩やかなものになってまいりました。

▶フラットパネルディスプレイ(FPD)市場

- ◆当初はテレビ市場の低迷により大型液晶ディスプレイ関連の設備投資に慎重な動きが見られたものの、後半には中国を中心に投資が再開されました。
- ◆スマートフォン、タブレットPCなどのモバイル端末向け中小型液晶ディスプレイ関連の設備投資が堅調に推移いたしました。

市場環境

▶半導体市場

- ◆モバイル端末、サーバーなどの需要増加により、モバイルDRAM、NANDフラッシュメモリ向け設備投資が順調に推移いたしました。

▶自動車市場

- ◆エコカーなどの販売が好調なことから、カーエレクトロニクス製品をはじめ自動車部品向けの設備投資が堅調に推移いたしました。



①事業の経過及び成果



経営環境への対処

- ◆ 価格面では、お客様からの継続的な価格引き下げ圧力に加え、競合他社との厳しい価格競争が継続いたしました。
- ◆ こうした中、当社グループは、昨年策定した中期経営計画を基本に事業展開を図ってまいりました。

①事業の経過及び成果

第110期業績(連結)

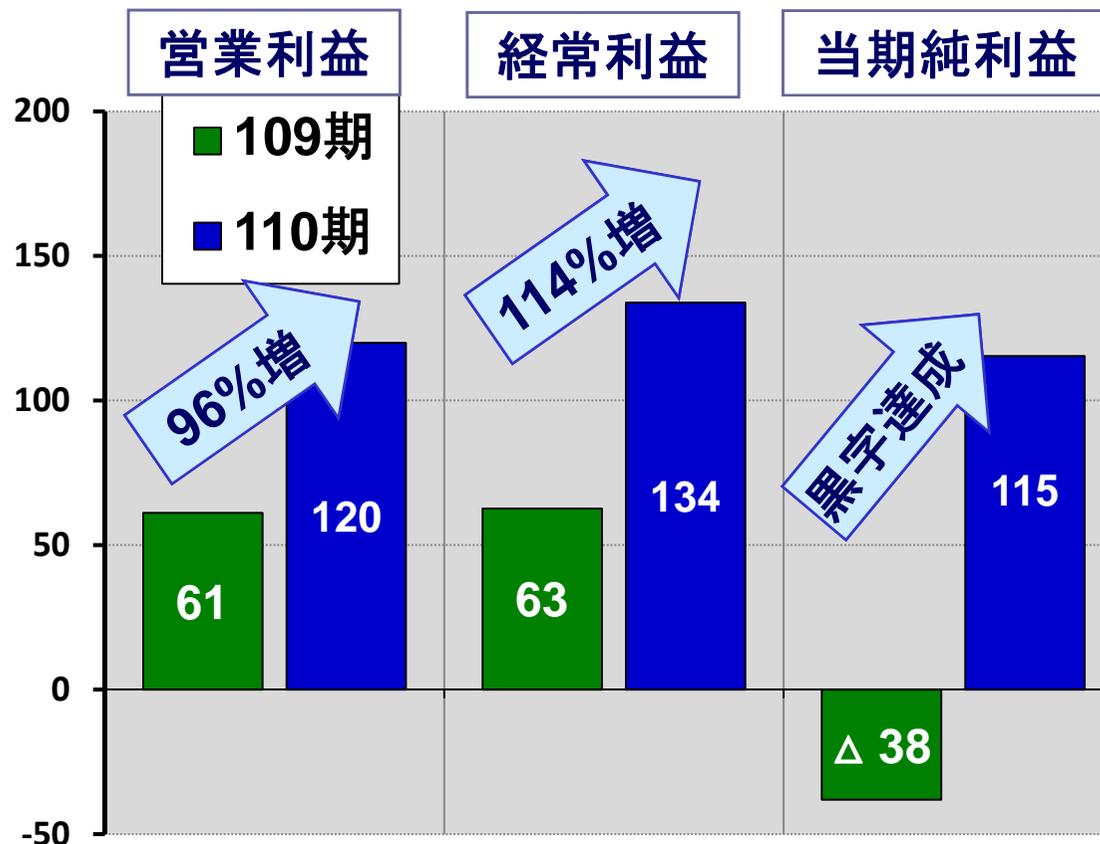


①事業の経過及び成果

第110期業績(連結)



【単位:億円】



①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績

【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)		前期比(%)
真空機器事業	1,369	105.1	1,397	109.8	591	96.5
真空応用事業	329	90.1	342	94.7	81	72.1
合計	1,698	101.8	1,739	106.4	672	92.7

【百万円単位で計算後、四捨五入】

①事業の経過及び成果

真空機器事業(1)



■ FPD及びPV製造装置

▶受注高

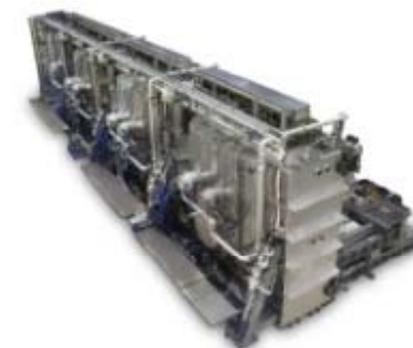
日本、韓国向けの中小型液晶ディスプレイ製造装置、台湾、中国向けの大型液晶ディスプレイ製造装置が寄与いたしました。前期に比べて減少いたしました。



有機EL製造装置

▶売上高

日本、中国及び韓国向けに中小型液晶ディスプレイ製造装置が、中国向けに大型ディスプレイ製造装置、有機EL製造装置が寄与し、前期に比べて増加いたしました。



液晶ディスプレイ製造装置
(スパッタリング装置)

①事業の経過及び成果

真空機器事業(2)



■ 半導体及び電子部品製造装置

- ▶ 半導体関連では、モバイルDRAM、NANDフラッシュメモリ用スパッタリング装置や自然酸化膜除去装置が寄与。
- ▶ 電子部品関連では、パワー半導体やモバイル端末向け高機能デバイス用スパッタリング装置などが寄与。

受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。

①事業の経過及び成果

真空機器事業(3)



■ コンポーネント

- ▶ 受注高は下期に入り一服感が見られ、前期に比べて減少いたしました。売上高は半導体、電子部品、自動車関連の設備投資が堅調だったこともあり、前期に比べて増加いたしました。



ドライポンプ



クライオポンプ



小型ポンプ

①事業の経過及び成果

真空機器事業(4)



■ 一般産業用装置

- ▶ 主に自動車部品用真空熱処理炉、ヘリウムリークテスト装置、高性能磁石用真空熱処理炉、医薬品用凍結真空乾燥装置などが寄与し、受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。



自動車部品用真空熱処理炉



ヘリウム
リークテスト装置



凍結真空乾燥装置

①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績 (真空機器事業)

【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業利益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
真空機器事業	1,369	105.1	1,397	109.8	84	591	96.5
		90.1		94.7			72.1
		101.8		106.4			92.7

①事業の経過及び成果

真空応用事業(1)



■ 材料

- ▶ 不採算事業の見直しなどにより受注高は前期に比べて減少いたしましたが、スパッタリングターゲット材料関連を中心に売上高は前期に比べて若干増加いたしました。



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



半導体用
スパッタリングターゲット材料

①事業の経過及び成果

真空応用事業(2)



■ その他

▶ マスクブランクス関連

- ◆ スマートフォンやタブレットPCの好調を受け、堅調に推移いたしました。

▶ 分析機器関連

- ◆ 日本の民間企業向けを中心に堅調に推移いたしました。

①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績 (真空応用事業)

【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		営業利益	期末受注残高	
		前期比(%)		前期比(%)			前期比(%)
		105.1		109.8			96.5
真空応用事業	329	90.1	342	94.7	36	81	72.1
		101.8		106.4			92.7

※受注高、受注残高、売上高とも対前年比でマイナスとなっておりますが、これは子会社の株式を売却したことにより連結決算の対象から外れたこと、一部不採算商品の見直しを行ったことなどによるものです。

【百万円単位で計算後、四捨五入】

②設備投資の状況(主なもの)



設備投資の総額:62億円

主な設備投資の内容	会社名
・電子機器関連及び半導体用のプロセス評価装置	(株)アルバック
・マスクブランクス生産用設備改善	アルバック成膜(株)
・マスクブランクス生産用設備増強	ULCOAT TAIWAN,Inc.

③資金調達の状況



■ 資金調達

当連結会計年度は、新株式の発行等による資金調達は行っておりません。

■ 借入金の総額

総額 896億円(前連結会計年度比165億円減)

⑦他の会社の株式その他の持分または 新株予約権等の取得または処分の状況

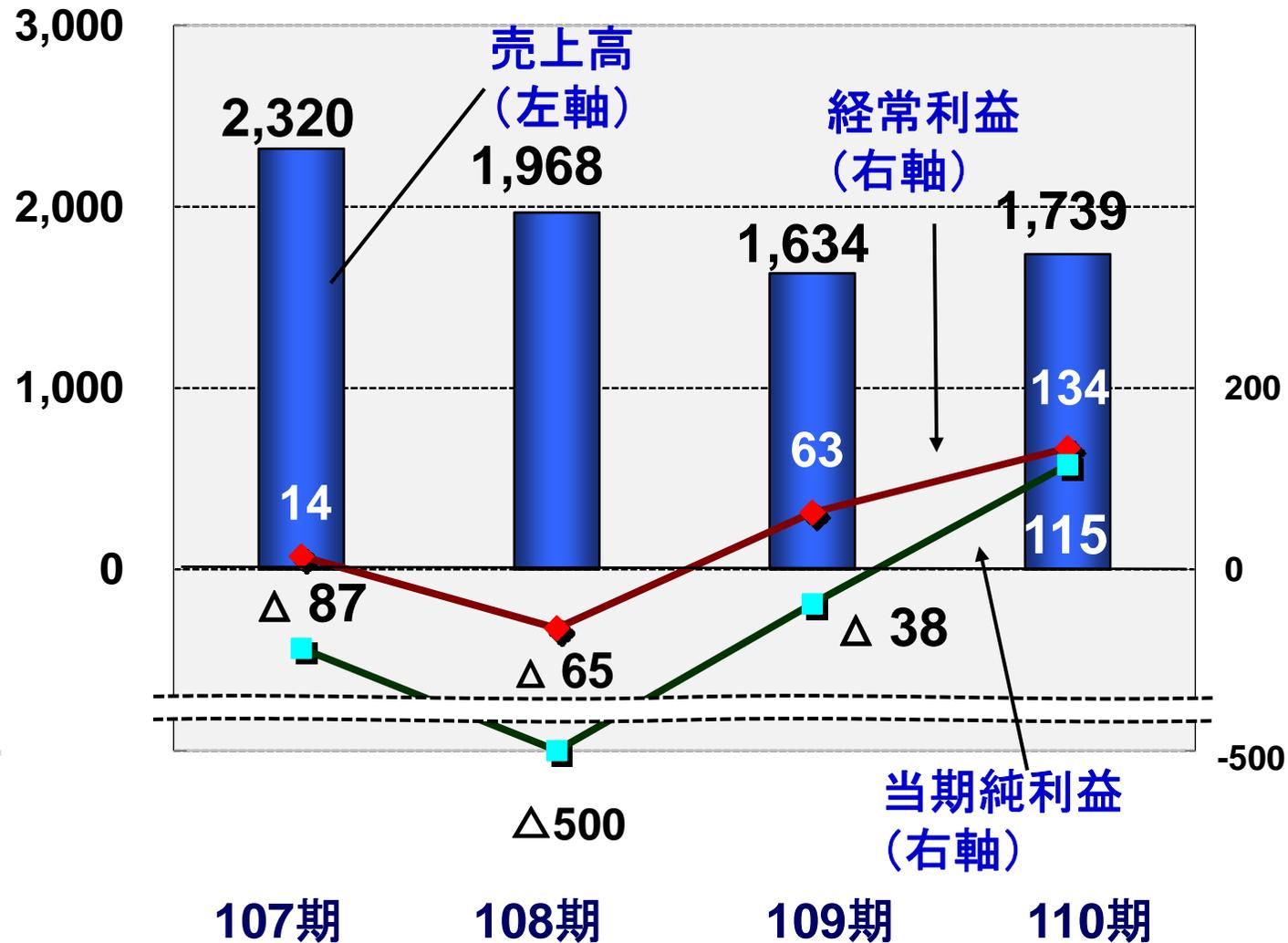


■ 子会社の株式の譲渡

平成25年11月29日を効力発生日として、子会社であった日本リライアンス株式会社の一部株式(80%)を株式会社高岳製作所に譲渡いたしました。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)

【単位:億円】



(4) 対処すべき課題



■ 現中期経営計画(平成25年6月策定)

▶ 基本方針

① 価値創造型ビジネスモデルの再構築

真空技術を核とした付加価値を高める仕組みの再構築

② 不採算事業の見直し

③ 損益分岐点売上高の引き下げ

⇒ 確実・安定的に収益確保できる体制の確立をめざし策定

▶ 事業領域

① 「FPD及びPV製造装置」「一般産業用装置」

「コンポーネント」が継続的に下支え

② 「半導体及び電子部品製造装置」が成長を牽引

(4) 対処すべき課題



■ 計画初年度（平成26年6月期）

受注高・売上高は当初予想を下回りましたが、
営業利益・経常利益・当期純利益は当初予想を上回る結果

■ 平成27年6月期以降

➤ 現中期経営計画で掲げる基本方針や事業領域に関する
基本シナリオについては変えることなく事業を推進

- ① 戦略的な研究開発投資を当初想定より増加
- ② FPD及びPV製造装置の市場で、当初想定していた
「テレビ用有機EL製造装置」への投資が延期・縮小傾向
- ③ 今後の価格競争環境についてより厳しめに見込む

➤ 数値目標の見直し、最終年度を1年延長

(4) 対処すべき課題



中期経営計画の見直し

■ <数値目標(連結ベース)>

【単位:億円】

	平成26年 6月期 実績	平成27年 6月期 予想	平成28年 6月期 目標	平成29年 6月期 目標 (最終年度)
受注高	1,698	1,700	1,900	2,000
売上高	1,739	1,750	1,900	2,000
営業利益	120	90	130	160
営業利益率	6.9%	5.1%	6.8%	8.0%
経常利益	134	85	120	150
当期純利益	115	65	90	110

当社グループでは、引き続き「中期経営計画」を基本に事業展開を図り「確実・安定的に収益確保できる体制の確立」をめざしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも
引き続き格別のご理解とご支援を賜り
ますようお願い申し上げます。

株式の状況

■ A種種類株式の一部取得及び消却

➤ 平成26年9月10日開催取締役会で決議

◆ 定款第12条の2の規定の基づき取得

◆ 当該取得を条件として会社法第178条の規定に基づく消却

➤ 取得及び消却の内容

◆ 取得及び消却する株式の種類 A種種類株式

◆ 取得及び消却する株式の総数 500株

◆ 取得日及び消却の効力発生日 平成26年11月5日

➤ A種種類株式の取得状況

◆ 当初発行株式数 1,500株(発行価額150億円)

◆ 今回取得株式数 500株(発行価額 50億円)

◆ 未取得株式数 1,000株(発行価額100億円)

連結計算書類

連結貸借対照表(資産の部)



【単位:億円】

	第109期	第110期	増 減
流動資産	1,536	1,458	△78
固定資産	897	850	△47
有形固定資産	718	669	△49
無形固定資産	54	50	△4
投資その他の資産	125	131	+6
資産合計	2,433	2,308	△125

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

資産の部 : 主要な変動要因

- ◆受取手形及び売掛金 : 132億円減少
- ◆たな卸資産 : 96億円減少
- ◆現金及び預金 : 131億円増加

連結計算書類

連結貸借対照表(負債・純資産の部)



【単位:億円】

	第109期	第110期	増減
(負債の部)			
流動負債	1,441	1,221	△219
固定負債	398	364	△34
負債合計	1,839	1,586	△253
(純資産の部)			
純資産合計	594	722	+128
負債及び純資産合計	2,433	2,308	△125

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

負債の部： 主要な減少要因

◆短期借入金	: 135億円減少
◆前受金	: 41億円減少
◆長期借入金	: 30億円減少

純資産の部： 主要な増加要因

◆利益剰余金	: 115億円増加
--------	-----------

【単位：億円】

	第109期	第110期	増 減
売上高	1,634	1,739	+105
営業利益	61	120	+59
経常利益	63	134	+71
当期純利益	△38	115	+153

貸借対照表

【単位：億円】

	第109期	第110期	増 減
(資産の部)			
流動資産	945	811	△134
固定資産	791	730	△61
資産合計	1,736	1,541	△195
(負債の部)			
流動負債	1,061	847	△214
固定負債	271	249	△22
負債合計	1,332	1,096	△236
(純資産の部)			
株主資本	401	442	40
評価・換算差額等	3	3	0
純資産合計	404	445	41
負債純資産合計	1,736	1,541	△195



【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

損益計算書

【単位：億円】

	第110期
売上高	879
営業利益	27
経常利益	42
当期純利益	40

第1号議案 剰余金の処分の件

■期末配当に関する事項

A種種類株式1株につき金70万円(配当総額10億5千万円)
配当原資は、その他資本剰余金。

■その他の剰余金の処分にに関する事項

①減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金	138億4百万円
別途積立金	302億6百万円

②増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金	440億1千万円
---------	----------

第2号議案 取締役5名選任の件

[取締役候補者(5名)]

おびなた ひさはる
小日向 久治

まつだい まさすけ
末代 政輔

おだぎ ひでゆき
小田木 秀幸

みはやし あきら
御林 彰※(社外取締役)

いけだ しゅうぞう
池田 修三(社外取締役)

※新任取締役候補者

[非改選(2名)]

ぼう あきのり
坊 昭範

もとよし みつる
本吉 光

第3号議案 監査役1名選任の件

[監査役候補者(1名)]

たかはし
高橋

せいいち
誠一※

※新任監査役候補者

[非改選(3名)]

まちどり
待鳥

ひろのぶ
啓信

あさだ
浅田

せんしゅう
千秋 (社外監査役)

おおつか
大塚

かずみ
一実 (社外監査役)

決議事項の議案の採決

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 取締役5名選任の件

第3号議案 監査役1名選任の件

本日は、まことに
ありがとうございました。

ULVAC

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。